

大学番号：076

注3

[平成24年度設置]

計画の区分：学部の学科の設置

注1

届出

千葉科学大学 危機管理学部 環境危機管理学科

注2

【届出】設置に係る改善意見等対応状況報告書

学校法人 加計学園  
平成28年5月1日現在

作成担当者	
担当部局（課）名	庶務部 企画課
職名・氏名	カチョウ 課長 ヨネクラ 米倉 ヒロカス 大和
電話番号	0479-30-4517
（夜間）	0479-30-4500
F A X	0479-30-4518
e-mail	ML-kikaku@ml.cis.ac.jp

- (注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。
- 2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。  
 設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には設置時の旧名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、現在の名称を記載してください。  
 例) 〇〇大学 △△学部 □□学科  
 (◇◇学部(平成◇◇年度より学科名称変更))  
 表題は「計画の区分」に従い、記入してください。  
 例)  
 ・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」  
 ・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」  
 ・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」  
 ・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」  
 ・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」
- 3 大学番号の欄については、平成28年3月30日付事務連絡「大学等の設置に係る設置計画履行状況報告書等の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

# 目次

危機管理学部

<環境危機管理学科>	ページ
1. 調査対象大学等の概要等 . . . . .	1
2. 既設大学等の状況 . . . . .	2
3. 教員組織の状況 . . . . .	6
4. 前年度のAC調査において付された意見への対応状況 . . . . .	7

# 1 調査対象大学等の概要等

## (1) 設置者

学校法人 加計学園

## (2) 大学名 千葉科学大学

## (3) 大学の位置

〒288-0025  
千葉県銚子市潮見町3

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を( )書きで記入してください。  
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

## (4) 調査対象学部等の名称、定員等

調査対象学部等の 名称(学位)	設置時の計画				備考
	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
危機管理学部 環境危機管理学科 学士(危機管理)	4 年	40 人	- 年次 人	160 人	

- (注) ・定員を変更した場合は、「備考」に変更前的人数、変更年月及び報告年度を( )書きで記入してください。  
・学生募集停止を予定している場合は、「備考」にその旨記載してください。

## 2 既設大学等の状況

大学の名称		千葉科学大学							備考		
既設学部等の名称	修業年限	入定員	編入学定員	収定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	設年度	所在地		
	年	人	年次人	人		倍					
千葉科学大学大学院 薬学研究科 薬学専攻 博士課程	4	3	-	12	博士(薬学)	0.24	平成24年度		千葉県銚子市潮見町3		
薬科学専攻 修士課程	2	10	-	20	修士(薬科学)	0.25	平成22年度				
博士課程(後期)	3	5	-	15	博士(薬科学)	0.06	平成22年度				
危機管理学研究科 危機管理学専攻 修士課程	2	5	-	10	修士(危機管理学)	1.30	平成20年度				
博士課程(後期)	3	名	課	9	博士(危機管理学)	0.11	平成22年度				
千葉科学大学 薬学部						0.97					6年制学科
						0.45					4年制学科
薬学科	6	120	-	720	学士(薬学)	0.97	平成18年度				
薬科学科	4	-	-	-		-	平成18年度				H22年度より募集停止
生命薬科学科	4	40	-	160	学士(生命薬科学科)	0.45	平成22年度				
危機管理学部 危機管理システム学科	4	100	-	400	学士(危機管理)	0.85	平成16年度				
動物・環境システム学科	4	-	-	-	学士(危機管理)	-	-			H24年度より募集停止	
環境危機管理学科	4	40	-	160	学士(危機管理)	0.56	平成24年度				
医療危機管理学科	4	80	-	320	学士(危機管理)	1.10	平成21年度				
工技術危機管理学科	4	40	-	160	学士(危機管理)	0.24	平成22年度				
動物危機管理学科	4	40	-	160	学士(危機管理)	0.71	平成24年度				
看護学部 看護学科	4	80	-	240	学士(看護学)	1.17	平成26年度				
大学の名称		岡山理科大学							備考		
既設学部等の名称	修業年限	入定員	編入学定員	収定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	設年度	所在地		
	年	人	年次人	人		倍					
大学院 理学研究科 応用数学専攻修士課程	2	6	-	12	修士(理学)	0.49	昭和55年度		岡山県岡山市北区 理大町1番1号		
化学専攻修士課程	2	16	-	32	修士(理学)	0.59	昭和49年度				
応用物理学専攻修士課程	2	6	-	12	修士(理学)	0.46	昭和49年度				
総合理学専攻修士課程	2	12	-	24	修士(理学)	0.49	昭和63年度				
生物化学専攻修士課程	2	13	-	26	修士(理学)	0.80	平成4年度				
臨床生命科学専攻修士課程	2	12	-	24	修士(理学)	1.03	平成20年度				

大学の名称	岡山理科大学								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開設年度	所在地	
動物学専攻修士課程	2	4	—	8	修士（理学）	0.50	平成24年度		
応用数学専攻									
博士課程（後期）	3	4	—	12	博士（理学）	0.16	昭和62年度		
材質理学専攻									
博士課程（後期）	3	9	—	27	博士（理学）	0.25	昭和53年度		
工学研究科									
応用化学専攻修士課程	2	13	—	26	修士（工学）	0.18	平成2年度		
機械システム工学専攻									
修士課程	2	13	—	26	修士（工学）	0.49	平成2年度		
電子工学専攻修士課程	2	8	—	16	修士（工学）	0.43	平成2年度		
情報工学専攻修士課程	2	10	—	20	修士（工学）	0.40	平成8年度		
知能機械工学専攻									
修士課程	2	8	—	16	修士（工学）	0.74	平成21年度		
生体医工学専攻修士課程	2	6	—	12	修士（工学）	0.41	平成23年度		
建築学専攻修士課程	2	8	—	16	修士（工学）	0.68	平成23年度		
システム科学専攻	3	5	—	15	博士（工学）	0.33	平成2年度		
博士課程（後期）									
総合情報研究科									
情報科学専攻修士課程	2	7	—	14	修士（総合情報）	0.42	平成13年度		
生物地球システム専攻									
修士課程	—	—	—	—	修士（総合情報）	—	平成13年度		平成28年より学生募集停止
社会情報専攻修士課程	2	6	—	12	修士（総合情報）	0.08	平成13年度		
数理・環境システム専攻									
博士課程（後期）	3	2	—	6	博士（学術）	0.83	平成15年度		
生物地球化学研究科									
生物地球化学専攻修士課程	2	12	—	12	修士（理学）	0.41	平成28年度		
学部									
理学部									
応用数学科	4	95	—	380	学士（理学）	1.18	昭和39年度		
化学科	4	70	—	280	学士（理学）	1.20	昭和39年度		
応用物理学科	4				学士（理学）		昭和41年度		
物理科学専攻	4	40	—	140	学士（理学）	1.04	平成14年度		平成27年度入学定員増（10人）
医用科学専攻	4	30	—	140	学士（理学）		平成14年度		平成27年度入学定員減（10人）
基礎理学科	4	75	—	300	学士（理学）	1.13	昭和50年度		
生物化学科	4	85	—	340	学士（理学）	1.15	昭和63年度		
臨床生命科学科	4	85	—	340	学士（理学）	1.14	平成16年度		
動物学科	4	40	—	160	学士（理学）	1.16	平成20年度		
工学部									
バイオ・応用化学科	4	75	—	300	学士（工学）	1.19	昭和61年度		
機械システム工学科	4	85	—	340	学士（工学）	1.16	昭和61年度		
電気電子システム学科	4	70	—	280	学士（工学）	1.13	昭和61年度		
情報工学科	4	85	—	340	学士（工学）	1.17	平成4年度		
知能機械工学科	4	55	—	220	学士（工学）	1.05	平成17年度		
生命医療工学科	4	60	—	240	学士（工学）	1.00	平成19年度		

大学の名称	岡山理科大学								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地	
建築学科	4	70	3年次 5	290	学士(工学)	1.18	平成23年度		
総合情報学部 情報科学科	4	80	—	320	学士(総合情報学)	1.17 1.19	平成9年度		
生物地球システム学科	4	—	—	—	学士(総合情報学)	—	平成9年度		平成24年度より学生募集停止
社会情報学科	4	80	—	320	学士(総合情報学)	1.15	平成9年度		
生物地球学部 生物地球学科	4	120	—	460	学士(理学)	1.15 1.15	平成24年度		平成26年度入学定員増(20人)
教育学部 初等教育学科	4	70	—	70		1.05 1.14	平成28年度		
中等教育学科	4	60	—	60		0.95	平成28年度		
大学の名称	倉敷芸術科学大学								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地	
大学院 芸術研究科	年	人	年次 人	人		倍		岡山県倉敷市 連島町西之浦 2640番地	
美術専攻修士課程	2	10	—	20	修士(芸術)	0.10	平成11年度		
工芸専攻修士課程	2	—	—	—		—	平成11年度		平成28年度より学生募集停止
芸術制作表現専攻 博士(後期)課程	3	4	—	12	博士(芸術)	0.25	平成13年度		
産業科学技術研究科 計算機科学専攻修士課程	2	8	—	16	修士(産業科学技術)	0.06	平成11年度		
機能物質化学専攻修士課程	2	8	—	16	修士(産業科学技術)	0.31	平成11年度		
計算機科学専攻 博士(後期)課程	3	2	—	6	博士(工学)	0.16	平成13年度		
機能物質化学専攻 博士(後期)課程	3	2	—	6	博士(工学)	0.00	平成13年度		
人間文化研究科 人間文化専攻修士課程	2	15	—	30	修士(学術)	0.19	平成11年度		
大学院(通信制) 芸術研究科 美術専攻(通信制)修士課程	2	10	—	20	修士(芸術)	0.10	平成14年度		
産業科学技術研究科 機能物質化学専攻(通信制)修士課程	2	30	—	60	修士(産業科学技術)	0.00	平成14年度		
人間文化研究科 人間文化専攻(通信制)修士課程	2	30	—	60	修士(学術)	0.03	平成14年度		

大学の名称	倉敷芸術科学大学								備考	
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地		
大学						0.87				
芸術学部										
美術工芸学科	4	—	—	—	学士（芸術）	—	平成20年度		平成26年度より学生募集停止	
			3年次							
メディア映像学科	4	50	2	189	学士（芸術）	1.04	平成16年度		平成26年度入学定員増（15名）	
デザイン芸術学科	4	55	—	200	学士（芸術）	0.71	平成20年度		平成26年度入学定員増（20名）	
芸術学部 計										
産業科学技術学部						0.43				
観光学科	4	—	—	—	学士（産業科学技術）	—	平成20年度		平成26年度より学生募集停止	
			3年次						平成26年度より3年次編入学生募集停止	
経営情報学科	4	90	4	338	学士（産業科学技術）	0.43	平成23年度		平成26年度入学定員増（45名）	
生命科学部						0.98				
生命科学科	4	50	—	185	学士（生命科学）	1.08	平成16年度		平成26年度入学定員増（5名）	
健康科学科	4				学士（健康科学）	0.96	平成16年度			
健康科学専攻	4	55	—	220	学士（健康科学）					平成26年度入学定員増（30名）
鍼灸専攻	4	30	—	90	学士（健康科学）					
			3年次							
動物生命科学科	4	60	2	249	学士（生命科学）	0.87	平成18年度		平成26年度入学定員減（5名）	
生命医科学科	4	50	—	200	学士（生命科学）	1.07	平成20年度			
健康医療学科	4	—	—	—	学士（健康科学）	—	平成23年度		平成26年度より学生募集停止	

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者（学校法人等）が設置している全ての大学（学部、学科）、大学院（専攻）及び短期大学（学科）（AC対象学部等含む）について、それぞれの学校種ごとに、平成28年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに記入してください。  
 ※「入学定員を定めている組織ごと」には、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。  
 ※なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている組織上の最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」）でも記載してください。
  - ・専攻科に係るものについては、記入する必要はありません。
  - ・AC対象学部等についても必ず記入してください。
  - ・「平均入学定員超過率」には、標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点以下第2位まで（小数点以下第3位を切り捨て）を記入してください。
  - ・学生募集を停止している学部等がある場合、入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「—」とし、「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。

### 3 教員組織の状況

<危機管理学部 環境危機管理学科>

#### (1) 専任教員数

設置時の計画					現在（報告書提出時）の状況				
教授	准教授	講師	助教	計	教授	准教授	講師	助教	計 (A)
6	1	2	0	9	6	1	2	2	11
(6)	(1)	(2)	(0)	(9)					

- (注) ・「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、( ) 内に開設時の状況を記入してください。
- ・「現在（報告書提出時）の状況」には、報告書提出年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。

#### (2) 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢（歳）		報告書提出時（上記（A））の教員のうち、定年を延長して採用している教員数
平成19年より前の採用	68	2
平成19年以降採用	65	
歳		名

- (注) ・「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、平成28年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数を記入してください。
- ・なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。



#### 4 前年度のAC調査において付された意見への対応状況

意見	履行状況	未履行事項についての実施計画
<p>○危機管理学部環境危機管理学科において、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編制の将来構想について検討すること。</p>	<p style="text-align: center;">改善意見</p> <p>平成19年度に定年規程を見直しが行われ、定年年齢の引下げを行ったが、平成19年度以前の採用者は移行措置として定年年齢を68歳と定められている。</p> <p>平成27年度末までに退職した教員の補充及び教育の充実を目指し公募等を実施し、50代前半の教授を1名、40代の教授1名、講師2名、助教1名を採用するとともに、20代の助教を採用した。</p> <p>教員の新採用手続きとしては、定年を迎える前年度に当該教員の専門分野において新たに教員を公募等を実施しているが、適当者が見つからない場合、教育の継続性に留意し、3年間を限度とし、教員の再任用等を行っている。</p> <p>これにより現行、60歳以上の教員が2名、50歳代の教員が2名、40歳代の教員が4名、30歳代の教員が2名、20歳代の教員が1名の計11名で教育を行っている。</p>	<p>定年を超える教員が担当している分野について、引き続き公募等を実施し教員候補者を選定するとともに、教育の継続性を考慮しつつ、今後定年を迎える教員については逐次、公募等を利用し、適正な年齢構成を図り補充を考えていく所存である。</p>
<p>○危機管理学部動物危機管理学科において、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編制の将来構想について検討すること。</p>	<p style="text-align: center;">改善意見</p> <p>平成19年度に定年規程を見直しが行われ、定年年齢の引下げを行ったが、平成19年度以前の採用者は移行措置として定年年齢を68歳と定められている。</p> <p>平成27年度末までに退職した教員の補充及び教育の充実を目指し50代の准教授1名、40代の准教授1名、30代の講師1名、助教2名を採用し年齢構成の適正化を図った。</p> <p>教員の新採用手続きとしては、定年を迎える前年度に当該教員の専門分野において新たに教員を公募等を実施しているが、適当者が見つからない場合、教育の継続性に留意し、3年間を限度とし、教員の再任用等を行っている。</p> <p>これにより現行、60歳以上の教員が5名、50歳代の教員が1名、40歳代の教員が1名、30歳代の教員が2名の計9名で教育を行っている。</p>	<p>定年を超える教員が担当している分野について、引き続き公募等を実施し教員候補者を選定するとともに、教育の継続性を考慮しつつ、今後定年を迎える教員については逐次、公募等を利用し、適正な年齢構成を図り補充を考えていく所存である。</p>

<p>○既設学部等（薬学部生命薬科学科、危機管理学部工学技術危機管理学科、倉敷芸術科学大学産業科学技術学部経営情報学科）の定員充足率の平均が0.7倍未満となっていることから、学生確保に努めるとともに、入学定員の見直しについて検討すること。</p>	<p>改善意見</p>	<p>（千葉科学大学）  <b>【薬学部 生命薬科学科】</b>          薬学部生命薬科学科の入学者は平成26年度は23名、平成27年度は19名であった。平成28年度の入学者は8名に留まった。          昨年来、当該学科のみならず、全学的な入試広報委員会において受験生、保護者への情報提供の方法・内容、教育研究内容の充実等について分析・検討するとともに、これまでの入学数等を鑑み、入学定員の見直しを含め入学定員充足率の向上を目指している。</p> <p><b>【工学技術危機管理学科】</b>          危機管理学部工学技術危機管理学科の入学者は平成26年度は9名、平成27年度は12名であった。平成28年度の入学者は12名に留まった。この内、航空関連の進路を希望する学生が9割以上を占めることから学科名称で更に受験生・保護者等に学科の教育内容が伝わるよう学科名称を航空技術危機管理学科に変更したいと考えている。</p> <p>（倉敷芸術科学大学）  <b>【産業科学技術学部経営情報学科】</b>          受験生等に学部学科の教育理念や目指す人材養成像などを分かりやすく伝えるため、学科独自のオープンキャンパスの開催やオリジナルホームページを立ち上げ、学外に広く周知した。また、高校現場との信頼関係をより強くするため、在学生の近況や授業風景など、高校への訪問、郵送などで報告してきた。その結果、2015年度の志願者64名・入学者40名に対し、2016年度は志願者65名・入学者36名と苦戦している。入学定員については、学部運営を考慮し、入学定員を95名から5名減じて90名に見直しを図った。</p>	<p>（千葉科学大学）  <b>【薬学部 生命薬科学科】</b>          4年制の生命薬科学科は6年制薬学科に比べて資格が取れない、就職先が明確ではないという受験生、保護者の判断で受験者数が低迷していた傾向があるよう感じられる。          そのため、化粧品業界や食品関係業界等の生命科学に関わる多様な就職先、また、大学院進学など様々なキャリアパスが得られることを更にアピールするとともに、受験生、保護者への情報提供の方法・内容、教育研究内容の充実等について当該学科のみならず、全学的な入試広報委員会において分析・検討するとともに、これまでの入学数等を鑑み、入学定員の見直しを含め入学定員充足率の向上を目指している。</p> <p><b>【工学技術危機管理学科】</b>          当該学科及び全学的な入試広報委員会等で受験生、保護者への情報提供の方法・内容、教育研究内容の充実等について更なる検討を行い、入学定員確保を目指す。          また、これまでの入学者に将来の進路先を確認すると、パイロット及び航空整備士等、航空関連の業種を目指す学生が入学者の8割以上を占めている。そのため、工学技術的見地を残しつつ、パイロット養成や航空整備等の航空関連の教育・研究を行ってることが学科名称でも受験生・保護者等に明確に伝わるよう学科名称を航空技術危機管理学科に変更したいと考えている。</p> <p>（倉敷芸術科学大学）  <b>【産業科学技術学部経営情報学科】</b>          今後の学生確保について、受験生等に学部学科の教育理念や目指す人材養成像などを分かりやすく伝えるため、今後も継続して学科独自のオープンキャンパスやオリジナルホームページにて学外に広く周知していく。高校現場との信頼関係をより強くしていくため、高校への報告も継続して行っていく。また、今後も学生が地元（倉敷）を利用しながら課題を解決し、その成果を地元還元できるよう、教育の質を向上させ、学部学科の認知度を上げていく方針である。</p>
---	-------------	--	--

(注) ・前年度のＡＣ調査において付された意見への対応状況を具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。  
なお、未履行事項がある場合は、今後の実施計画を具体的に記入してください。